

研究成果報告（要旨）
2026 年 1 月

中学受験を経験した子どもをもつ保護者特有のストレスについての調査

指導 山口 創 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
心理学実践研究学位プログラム ポジティブ心理分野
224J2053
上宮田 悠生

Research Paper (Abstract)
January 2026

A Study on the Unique Stress Experienced by Parents Whose Children Take Junior High
School Entrance Exams

Yuki Kamimiyata
224J2053
Master of Arts Program in Positive Psychology
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Research Paper Supervisor: Hajime Yamaguchi

目次

第1章 序論.....	1
1.1 研究背景・問題意識.....	1
1.2 先行研究のレビュー.....	2
1.3 研究の目的・意義.....	4
第2章 方法.....	5
2.1 研究対象者.....	5
2.2 調査内容.....	6
2.3 自由記述項目.....	6
2.4 手続き.....	7
第3章 結果.....	7
3.1 ソーシャルサポート尺度.....	8
3.2 養育態度尺度.....	9
3.3 知覚されたストレス尺度.....	9
3.4 相関分析.....	10
3.5 重回帰分析.....	10
3.6 自由記述データの分析.....	12
3.6.1 中学受験における経済的負担と生活への影響.....	12
3.6.2 受験校選択における判断視点.....	13
3.6.3 中学受験準備における日々のストレスとその場面.....	15
3.6.4 自由記述結果のまとめ.....	16
第4章 考察.....	18
4.1 考察.....	18
4.2 研究の限界と今後の課題.....	20
4.3 結論.....	21

引用文献

資料

近年、日本の中学受験は一般的な進路選択として認知される一方、受験期の長期的負荷は保護者の心理的ストレスを高め、家庭内の関わり方にも影響し得る。本研究は教育虐待そのものを測定・診断するのではなく、教育虐待的関与に至る可能性のある心理的背景要因を探索的に把握するために、中学受験経験の有無による保護者のソーシャルサポート、養育態度、知覚されたストレスの差異、ならびにソーシャルサポート・養育態度と知覚されたストレスの関連を検討した。

調査会社Freeasyを通じたオンライン横断質問紙調査を実施し、2001～2012年度生まれの子どもを持つ保護者116名（受験群36名、非受験群80名）から回答を得た。受験群には受験当時を想起して回答を求めた。測定には日本語版MSPSS（12項目・7件法：家族のサポート／友人のサポート／大切な人のサポート）、加藤らの養育態度尺度（25項目・5件法：受容・子ども中心／一貫性のない優柔不断なしつけ／統制）、日本語版PSS（10項目・5件法：知覚されたストレス）を用いた。外れ値は尺度別に箱ひげ図（Tukey法）に基づき除外したため、分析により有効回答数は一部異なった。主分析として、群間比較（独立サンプルt検定、必要に応じWelch法）、ピアソンの相関分析、知覚されたストレスを従属変数とする群別の重回帰分析（強制投入法）を行い、VIFが3以上の説明変数を除外して最終モデルを構成した。受験群の自由記述（経済的負担、学校選択、ストレス経験）はKHcoderで形態素解析後、頻度集計、共起ネットワーク、対応分析を行い、文脈確認を踏まえてカテゴリー化した。

結果として、ソーシャルサポート総得点は受験群 $M=54.54$ 、非受験群 $M=57.55$ で群間差は有意ではなく（Hedges $g=-0.21$, 95%CI[-0.611, 0.190]）、養育態度総得点も差は有意ではなかった（受験群 $M=72.33$ 、非受験群 $M=74.01$ 、 $g=0.15$, 95%CI[-0.570, 0.274]）。一方、知覚されたストレスは受験群 $M=41.53$ 、非受験群 $M=40.71$ で、受験群が有意に高かった（Welchのt検定： $t(70.07)=2.05$, $p=0.044$, $g=0.413$, 95%CI[-0.007, 0.830]）。相関分析では、ソーシャルサポートと知覚されたストレスの関連は弱い負の関連が示されたが、有意傾向にとどまった（ $r=-0.187$, 95%CI[-0.364, 0.002], $p=0.053$ ）。重回帰分析では、受験群の最終モデルは有意ではなかったが、受容・子ども中心のみが知覚されたストレスの低さと関連した（ $\beta=-0.633$, 95%CI[-1.262, -0.004], $p=0.049$ ）。非受験群でもモデル全体は有意ではなかったが、友人からのサポートのみが知覚されたストレスの低さと関連した（ $\beta=-0.263$, 95%CI[-0.506, -0.020], $p=0.034$ ）。自由記述では、塾費用等の直接費用、家計調整、余暇・生活の抑制、低負担が併存し、通塾に伴う生活リズムの変化や予定・体調・学習状況を同時に管理する負担、子どものやる気への継続的な気がかりが具体的に述べられた。

なお、本研究は横断的で受験当時の想起に基づくため因果関係を結論づけられず、サンプルサイズや自己報告に伴う制約もある。以上より、中学受験経験の有無は保護者のストレス知覚の差として反映され得る一方、ソーシャルサポートや養育態度は受験の有無のみでは差が捉えにくい可能性が示され、群別には受験群で受容的養育態度の自己評価、非受験群で友人サポートの知覚が、それぞれストレスの低さと関連する可能性が示唆された。

引用文献

- 浅見 里咲 (2025) 中学受験期に起きるエデュケーショナル・マルトリートメントについての一考察. 紀要 (日本女子大学) 31 号, 103-114.
- Brand, S., Beck, J., Hatzinger, M., Harbaugh, A., Ruch, W., & Holsboer-Trachsler, E. (2010). Associations between satisfaction with life, burnout-related emotional and physical exhaustion, and sleep complaints. *The World Journal of Biological Psychiatry*, 11(5), 744-754.
- 張 詩琪・副島 堯史 (2025) . 母親の社会的孤立に関連する因子：地域診断のためのデータ収集を目的とした横断研究. 日本公衆衛生雑誌, 72 (7) , 468-476.
- Dix, T. (1991). The affective organization of parenting: Adaptive and maladaptive processes. *Psychological Bulletin*, 110(1), 3-25.
- 井梅 由美子・大橋 恵・藤後 悦子 (2022) . 保護者を対象とした中学受験に関する調査 (2) —中学受験で大変だったこと— . 日本教育心理学会総会発表論文集, 第 64 回, 246.
- 岩佐一・権藤恭之・増井幸恵・稲垣宏樹・河合千恵子・大塚理加・小川貴志子・高山緑・井牟田洋美・鈴木隆雄 (2007) 日本語版「ソーシャル・サポート尺度」の信頼性ならびに妥当性：中高年者を対象とした検討. 厚生学の指標, 54(6), 26-33.
- 小林正法 (1997) ソーシャルサポートのストレス緩衝効果. 行動医学研究, 4(1), 29-38.
- 宮寺良光 (2020) 児童虐待発生の「社会的要因」に関する分析 中央大学経済研究所年報 第 52 号 51-62
- 望月由妃子・田中笑子・篠原亮次ほか (2014) 養育者の育児不安および育児環境と虐待の関連：保育園における研究. 日本公衆衛生雑誌, 61(6), 263-273.
- 村井潤一郎 (2022) . 中学受験の心理と課題. 教育心理学年報, 61, 267-278.
- 西村多久磨・櫻井茂男 (2013) 中学生における自律的学習動機づけと学業適応との関連. 心理学研究, 84(4), 365-375.
- 野澤 桂・小坂 逸子・今里 彩・馬場 早紀・高畑 浩子・菊池 誉子・高橋 智子・中島 智子・山縣 然太郎 (2019) . 育児負担感, 育児不安感に関連する因子：保育所に通う乳幼児をもつ母親を対象とした調査. 心理科学, 40 (1) , 1-12
- 大橋恵 (2023) 中学受験を選ぶ家庭と選ばない家庭の違い：首都圏在住の保護者を対象とした質問紙調査から. *Journal of Human Environmental Studies*, 21(1), 39-46.
- 首都圏模試センター (2023) 私立・国立中学受験者数は過去最多の 52,600 名、受験率も過去最高の 17.86% に！ 《首都圏》 (<https://www.syutoken-mosi.co.jp/blog/entry/entry003881.php>) 2026 年 1 月 3 日閲覧
- 坪田周介・小木曾洋介・高木祐介 (2025) 小学校高学年児童における中学受験の有無と精神的ストレスの経月的な変化に関連する一考察. 日本健康学会誌, 91(1), 13-20.
- 塚本伸一 (2021) ソーシャル・サポートと母親の愛着スタイルが育児ストレスに与える影響. 応用心理学研究, 46(3), 247-256.
- Uchino, B. N. (2006). Social support and health: A review of physiological processes potentially underlying links to disease outcomes. *Journal of Behavioral Medicine*, 29(4), 377-387.
- 吉次遥菜・野中俊介・齋藤彩乃・嶋田洋徳 (2023) 親の育児ストレスと随伴性知覚および育児信念が機能的な養育行動に及ぼす影響 ストレスマネジメント研究, 19(1), 24-31.
- Zimet, G. D., Dahlem, N. W., Zimet, S. G., & Farley, G. K. (1988). The Multidimensional Scale of Perceived Social Support. *Journal of Personality Assessment*, 52(1), 30-41.